

知事と区市町村長との意見交換（奥多摩町）

令和1年9月24日（火）

13時20分～13時40分

○行政部長 それでは意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事から一言お願い致します。

○知事 先ほどは防災担当大臣の下に、町村会の会長としてお出ましました。奥多摩町も防災という観点では雪であったり、火事であったり、もう一年中様々な課題を抱えておられるかと思いますが、やはり安全、安心なまちづくりを、東京全体でも進めていきたいと思っております。

また、それが長期に元気な東京であり続けるために長期の戦略、ビジョンを策定いたしておりますので、本日は奥多摩町の現状プラスその後のどういう発展をしたいか、どのようなことを行っていくべきなのか、お話を伺わせていただきたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長 河村町長、よろしくお願いたします。

○奥多摩町長 ありがとうございます。貴重な時間をいただきまして、大変ありがとうございます。

その前に、今日早朝、東京都の町村会として、また特に島の台風15号の被害については、小池知事が迅速に防災担当大臣に要望をしていただき、またご同行させていただきましたこと、大変感謝を申し上げるところでございます。

いずれにいたしましても、島の問題というのは非常にある意味では深刻でございますし、15日の日には知事も大島、それから新島の現場を見ているようでございますから、ぜひそういう意味で島の問題については、よろしくお願したいなというふうに思います。

さて、今日の私どものいろんなご意見を聞いていただけるということでございますけれども、大きく分けて、今、私どもの町そのものが少子高齢化をどうしようかということが、一番大きなテーマでございます。

そういう点では15年ほど前から、いかにして若者が定住をしていくか。特に高齢化率が今50%を若干切っておりますから、この時に手を打たないと、我々の地域をつくってくれていた先輩方が、健康で長生きする地域で元気で暮らせる。そういうところが将来不安だなということで、10年ほど前から少子化対策、特に子育ての15項目、あるいは住宅政策を始めました。

おかげ様でここにきて若干ですけれども、その結果が出てきております。それは一つには今年の4月ですけれども、古里小学校の入学の子供が16人なんですけれども、そのうちの15名がこの住宅政策をやったことよってのIターン、Uターンの人達でございました。それがないと地元から1名しか入らないという状況ですし、小学校は二つありますけど、氷川小学校の入学生が16名のうち6名が同じような状況でございます。

それから中学校が三つあったのですが、中学校を統合して、今、奥多摩中学一つになっ

たのですが、この中学1年生が28名のうち17名が同じような状況でございます。

従いまして、やっと10年掛かってそういう、その小さな芽ですけれども、芽吹きが出てきたのかなというふうに思っているところでございます。

いずれにしてもこの問題というのは長期的に、着実に、愚直にやらないと結果が出ないと思っておりますので、今後も市町村総合交付金を使わせていただきながら、町の独自事業をぜひ認めていただきながら実行していくことによってまちの安定、あるいは安全、安心、そういうものに繋げていきたいなというように思っております。

それからもう一点は、これは東京都全体もそうですし、そういう長期ビジョンでありますけれども、安全で安心していくまちをどうつくるかということでございます。

町の場合には急峻な山間地でございますから、土砂災害の部分がレッドゾーンという指定をこの6月に受けました。そうしますと、ほとんどの地域がイエローゾーンとレッドゾーンに入っちゃうんですね。

そうすると、家が安心して住めるということができないものですから、そうであるならばある一定の安全対策をやるかについては、個人所有でありますけれども85%、国が11.5%くれるようでございますから、その残りを含めて85%を町として手当をしておこうというふうな制度を始めさせていただきました。

個人所有ですから100%というふうにはいきませんので、15%を持ってもらうと。上限は200万ということで、今始めているところでございます。これも非常に戸数が多くて、全体では5億円ぐらい掛かるのかなというお金なんですけど、いっぺんにやるわけではないですから、しっかりとやっていきたいなというように思います。

それからもう一つは、ここにきて熊が非常に多く出没しまして、この15年ぐらいの間に一番頭数が多い時には3頭捕獲したんです。もう今年9頭捕獲しております。この問題については、緊急的に環境局で当面の対応を、手を打っていただいているところでございます。

長期的に鹿と同じように保護計画、あるいは管理計画等々を含めて、来年度以降それをやらないと、今年実は人間が一人熊に襲われているんですよ。過去にも二人ほど襲われていますから、都民の皆さんが自然の山にたくさん来ているので、そういう所に波及しては困るなということで、猟友会の皆さんに見回り等々を含めて、今やっておりますので、この対策というのを長期的に、今回つくる長期の中で自然を守ると同時に、動物とどう共生するかという視点から、長期的に見ていただきたいなというように思います。

今後、知事がおっしゃるように、長期的な部分でございますけれども、うちの町が長期的に安全で安心して、また多くの人達が観光を含めて来遊してくれることによって、地域の活性化が図れてまいりますので、そういうことを含めて、できれば森林環境税もできたこととございますので、その辺を含めて、西多摩地域の山間部をどうしていくかということはこの計画の中に入れていただければありがたいなど。

特に、今日知事と大臣の所に行った時に、知事の方からお話がありましたが、無電柱化の新しい発想を聞かせていただきました。まさにあの無電柱化の新しい発想は、うちのま

ちにとっても他人事ではなくて、山林の中に、あるいは林道の中に電柱が走って送電をしていますから、千葉と同じようなことが起きたら、もう倒木で停電することは間違いありませんので、この辺も都内の電柱がないのも結構なんですけれども、西多摩地域の景観のいいところ、あるいはそこに住む人達が安全で安心して住むとしたら、それも必要ではないかなというふうに思います。

いずれにしても財政力の脆弱な町でございますので、そういう隠れて個々のものがいっぱいありますので、この辺もできれば、こないだも西多摩郡の4町村で話をしたのですが、知事には宿泊を兼ねて泊まりに来ていただいて、懇談ができるような段取りをしていただければありがたいということで、お願いをしたいと思います。ありがとうございます。

○知事 ありがとうございます。人口は毎年30、40減っている一方で、新しい新住民の方々は、Iターンですか？Uターンですか？

○奥多摩町長 Iターンもあり、Uターンとも。

○知事 両方？

○奥多摩町長 両方あります。

○知事 でも、これまでの施策がなければ、その子供達はいないわけだからということは考えられますので、その意味では学校も、あんな広い所で集約といたらそれぞれの所から余計遠くなってしまうわけでしょ。その意味では本当に息の長い計画ではありますけれども、とても町の持続可能な成長には今の方式をより続けていただいて、また、奥多摩でのこの少子高齢化と定住化対策の取組について、市町村総合交付金等で地域の実情に即した効果的な支援をこれからも進めていきたいと考えております。

それから奥多摩は急峻な土地、先ほどのイエローゾーン、レッドゾーンのところでございますけれども、こうした場所での公共施設の改修や老朽化した庁舎の建て替えなどもあるかと思いますが、これについてもやはり総合交付金の柔軟な活用ということで対応させていただければと考えております。

それから各補助制度や地方債、有益な地方債等と併せ持って、財政負担の軽減を図れるように対応させていただきたいと思います。

最後は人間ではなくてツキノワグマ。どれぐらいの大きさなんですか。

○奥多摩町長 大きいもので約100キロ以上。

○知事 出没件数が都全体で60件のうち、奥多摩が47件っていうので、圧倒的に熊の被害ですね。

おっしゃるように、森林計画と付随したもので、今、森山が手入れがされていないと、また気候変動によって食べるものがなくなると、人様のいる所へ出てくるという悪循環になるわけですね。

おっしゃるように長期的にはこの森林をどのようにしていくかっていうのは大きな課題であり、また、私は知事会の方でも提唱をさせていただいておりますように、もっと木を使いましょうと。多摩産材だけでなく、全国の山を動かすようにしていったらどうだ。つまり、ニーズを作りましょうということで提唱させていただいております。

ぜひ、そういう意味で森林、緑、山をどう守るかはまさしく長期的な考えで進めていかないとはいけません。例えばお伊勢さんの20年毎に遷宮をするわけですがけれども、あれも山全体は200年計画ぐらいでやっておられるんですよね。

ですから、そういう意味ではまさしく長期の戦略としてどのようにしていくかは、大きな観点だと思います。

よろしいでしょうか。

ちなみにこの間は神津と利島も行って参りまして。

○奥多摩町長 ありがとうございます。

○知事 それぞれやはり、神津が風速57メートルと言っていましたから、これまで考えられない風速だったと思います。奥多摩の方はまた森林火災等ないようなご努力を続けていただければと思います。

○奥多摩町長 若干、今、知事のご発言のあった中で、補足をさせていただきますと、3年ほど前までは年間3桁、100から150人減っておりました。2年ほど前からその減り方が2桁台になりました。それと、さっきの子供の問題と繋がっていくわけですがけれども、そういう部分が実はございます。

それから森林の問題も非常に、ある意味では東京都が先進的な部分で干ばつ、枝打ち、これは10分の10で、仕事の場の確保、それからそこから働く就労者の問題、もう10年、15年近くなりますから、非常に効果を上げています。

これも継続していくことによって、年間その費用が5億なり6億きていますから、地域の人達がそこで働ける、それから森林がよくなっていくということは、もう事実でございますので、これを何とかそのまま継続してほしい。それが地域の活性化に繋がっている部分がございますので、そういう部分をお話をさせていただきたいと思います。

それから熊だけではなくて、鹿、猪、ハクビシンとあるんですけど、実際に最終的には動物とどう共生するかという、大きな問題が含まれていると思うんです。そういう点で管理を含めた部分をどうするのかという、これはなかなか一つの町だけではできませんので、東京都の動物がたくさん、いろんなものがある所をどうしようかということ、専門家を含めて考えていただきたいなというふうに思います。

それからもう一つは、私達は都会の人達に綺麗な空気と水を送っているというふうに自負をしております。そういう点ではダムが、一つの村が沈んでしまって、そこが、一番若くて60歳代しかいませんので、この辺も非常に大きな悩みを抱えておりましたね。

それからもう一つは、今、起きてることは鮮魚が食べられなくなってしまいました。三つあるお魚屋さんが全部後継者が。後継者難と、それから体調を崩したということで、三つあったんですけれども、それが全くなくなってしまいました。

それから奥多摩の駅前の交差点にあるスーパーなんですけれども、ここもこの9月いっぱい辞めるといような話も出てきており。

○知事 どこにお買い物に行くの。

○奥多摩町長 だから青梅まで行かないとないです。一番近い所が御岳のちょっと先なん

ですね。

これはいろんな考えがあるんですけど、考えていかなきゃいけないのかな。例えば檜原さんの例で見ますと、檜原さんも同じなんですけど、「かあべえや」という第三セクターをつくって最低限の日用品を、それを高齢者の皆さんが買い物に行けない部分を補っていくという政策をしてますんで、いよいようちの方にもきたのかなということ、これを真剣に考えないと、ただ単に民間レベルだけではもう立ち行かなくなっているというのが事実でございます。これも新しい施策として何か打っていかないといけないのかなということで、一生懸命考えております。これもまたある一定の考え方がまとまりましたら、東京都の皆さんにご相談をしながら、住民にとってきちんとしていきたい。

それからもう一つは古里に、公設民営で委託をしていたお医者さんがいたんですけど、この方が体を壊して、この10月1日から公益社団法人 地域医療振興協会がやってくれるということで出発いたします。総合内科、それから月に2回整形、それから新たに皮膚科を月に1回やってくれる。これは喜ばれそうなんですけれども、やっと1年ほどかけてそういうものを立ち上げていくというようなことで、次から次にいろんなことを考えていかないと、地域に住む人達が安全で安心して、特に若い世代には言っているんですけども、消防団員になってもらいたいなど。

消防団に入ると同時に、若い人達が地域のコミュニティに馴染んでほしい。従って、今では私達の地域はほぼ、100%近い人が地域のコミュニティに所属しております。それはもう幸いしているんですけども。

そういう点と、もう一つは消防団員も非常に熱心でございまして、一昨日、西多摩地域の8市町村で2年に1回、操法大会という大会があるんですが、これにもお陰さまでダブル優勝ということで、消防ポンプ自動車の部、それから小型動力ポンプの部。半年頑張っていたいただいて、時々激励に行って、あんた達に頑張ってもらわないとこの町は困るよということで、結果を出してくれたんで、そういうことも継続していかなくちゃいけないというふうに思っております。

そういう特殊な状況というのが、島でもあると思うんですけども、町村にはそういう特殊な事情がいっぱいあるということも理解いただければ、ありがたいなというふうに思っております。

○行政部長 ではお時間になります。知事、最後をお願いします。

○知事 ありがとうございます。ちなみにIターンの人達というのは、職種はどんな方々なんでしょうか。

○奥多摩町長 今、一番悩んでいるのは住宅です。私どもの大体1年で若者住宅を8棟つくっているんです。それは応募してきた人達を抽選でやるのではなくて、その中身を見させてもらっています。だから子供が何人いるか、あるいはこちらに来た時に生活ができるのか。仕事を変えてこななければいけませんので、そういうことまで面接をして、それでポイント制度でやっています。ポイント制度の高い人。

もう一つはマッチングの問題もあるんですけど、4つの特別養護老人ホームがあるんです

が、ここには介護福祉士が足りないんですよ。だけど入ってくる人達は介護福祉士になる人は、手を挙げる人がいないんです。従って、今の段階では外国から、今年からある老人ホームでは2人フィリピンの方を、それから来年から4人インドネシアの方を入れるというようなことが起こっています。

だから、本当はそういう山仕事だとか、介護の仕事をやる、そういう人もいるんです、実はいるんですけども、そういうふうなことが増えてくれれば、うまくマッチングがいくんですが、1年に1回総合相談をしています。町の中の土建屋さんを含めた企業と、それから入ってきた人達を含めていろんな相談会をしてるんですけども、そこが一番今難しいですね。

○知事 またその中身については別途詳しくお聞かせください。

○奥多摩町長 はい。

○知事 それからグランピングにまいりました際に、目の前に電柱が立っていて、とても、折角の自然なのにもったいないと思いましたが、今回の例のように、木は伸びますから、また倒木の問題に繋がって、それが停電になりますので、そういう危険性もありますので、ぜひ無電柱化はよりコストを下げる努力をして、日本は大体1キロ3億円とか4億円とか、とてつもない値段を言うんですけど、海外では普通にやってまして、1,000万とか2,000万円で普通にできてしまう。オーバースペックにならず、かつ安全、安心な方法は何かっというところで、今、もう詰めているところです。

○奥多摩町長 ぜひ早くそうなってもらいたいなと思って、グランピングの問題の前もそうですし、それから奥多摩の駅が割と人気があります。昭和19年に作った駅で、ここでJRを改装していただきました。

○知事 はい。

○奥多摩町長 やはり電柱があるんですよ。1回、知事が奥多摩に来た時に見ていただきたいのは、ダムのちょっと上がった所に、「青目立不動尊」というカフェがあるんですが、ここからのダムの景色には電線が1個もないんです。

素晴らしい景色で、ああいうものを見に来る。それから奥多摩の駅前で写真を撮る人が結構いますんでね、コストが下がれば東電の問題等々含めて、積極的にやりたいなという気持ちでおります。ぜひコストを下げるように、知事の方から発破をかけていただければありがたいんですけど。

○知事 ありがとうございます。

○行政部長 お時間になります。今日はどうもありがとうございました。遠いところ、ありがとうございます。